

vol.68

2022.2 甲府西高情報誌

西高のステージへ!

山梨県立甲府西高等学校
Kofu Nishi High School

nstage

熱くなる冬いざ高みへ



書：2年 大関 悠吾(竜王北中)

修学旅行



毎年、修学旅行で沖縄に行っていましたが、感染状況や移動距離を鑑み、今年は中国・関西地域へ行きました。

1日目

羽田空港→広島空港→平和記念資料館



2日目

クラス別行動(広島→大阪)



3日目

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン



4日目

クラス別行動(大阪→山梨)



修学旅行を振り返って真っ先に浮かぶ言葉は「感謝」です。入学してからこれまで、心のどこかにやりきれない気持ちがありました。思うように感染状況は良くなり、このまま高校生活が終わってしまうのではないかと不安になったこともありました。だからこそ、高校生活最大のイベントである修学旅行に無事に行けたことに心の底から感謝したいです。また、一日目に訪れた広島平和記念資料館では戦争の悲惨さを肌で感じました。戦争で苦しんだ方々に思いを馳せると共に、今、私たちが安全な生活を送れていることに感謝し、日々の時間を大切にするきっかけとなったと思います。全てが楽しかった修学旅行ですが、特に心に残っているのはUSJです。乗り物はもちろん、ミニオンやスヌーピーが溢れる空間は居るだけでため息が出るほど楽しかったです。仲間と一緒に修学旅行に行くことができ、本当に良かったです。ここから3年生に向けて、みんなで頑張っていきたいと思います。

修学旅行委員長 2年 花輪志帆(梨大附属中)

西高の探究活動

西高では鳳凰学という名前で探究活動をしています。1年生は「山梨に生きる」というテーマで山梨について調べ、その成果をポスターにまとめ発表しました。2年生は各自でテーマを設けた課題研究に取り組み、3年生で課題論文として発表します。

鳳凰学で1年次は「山梨に生きる」をテーマに各自研究をしました。私は将来農業に関わろうと思っているのでそれに関連付け、今回は武川米、特に農林48号の現状把握と美味しさの証明で地産地消に繋げようと考えました。2カ所で条件別に米の栽培、7品種で食べ比べ、聞き込みやインターネットで調査を行いグラフ作成など、様々なことを行いました。それらを元に2つにまとめました。一つは美味しさを含めた現状把握で、米に興味がない人が多いこと、山梨の米は魚沼産コシヒカリなどに匹敵する点を持ちながらも知名度が低いことが判明しました。そこで二つ目に知名度が低い理由を調査し、農林48号は山梨が自然環境に恵まれているからこそ美味しいこと、農林48号の両親の品種がコシヒカリの祖父母でもあり、これらを乗り越える可能性があることが分かりました。研究を通して人々の米への興味がかなり低いと分かったことを踏まえ、今後、興味を持ってもらうための研究をしていこうと思います。また、研究に沢山の方の協力を頂いて、周りの方の存在の大切さを改めて感じました。

1年 今井結愛(甲府北東中)



私は鳳凰学で音声アシスタントの話し方の問題点をテーマに探究活動を進めています。具体的には、Siriと人間の音声を音響分析し、アクセントや波形を比較するという研究を行っています。音声アシスタントの話し方の機械っぽさ(不自然な話し方)を改良すればより使いやすいものなるのではないかと考え、このテーマに決めました。初めは別の研究をするつもりでしたが、関連する文献を何十冊も読むことを通して音声合成技術の現状と問題点を知り、現在の研究に繋がりました。興味を持って取り組める疑問を見つけたので探究活動が楽しいと感じるようになりました。探究活動に取り組み始めた時、自分の気になることや疑問そのものがよく分からず、何をしたら良いのか迷うこともありましたが、今はそんな時こそ情報収集が第一歩だと考えるようになりました。私はこの経験を通して、本やインターネットで情報を得ることで新たな疑問やその参考になるものが多く得られるということを学びました。鳳凰学に限らず、身の回りの疑問を解決する際にもまずは情報収集を大切にしていきたいです。

2年 狩野竜馬(梨大附属中)

探究活動でまとめたものを「第7回高校生国際シンポジウム」(一般社団法人Global Academy)に応募し、4人の生徒が書類審査を通過しました。鹿児島県で開催される本大会に出場します。

「目指せ山梨県甲斐市の継続的な人口増加」1年 渡邊愛子(双葉中)

「山梨県における鹿による経済効果」1年 武田輝幸(双葉中)

「山梨県の宿泊客の現状と対策」1年 小林璃瑠(梨大附属中)

「音声アシスタントにおける韻律改良のための音響分析」2年 狩野竜馬(梨大附属中)

探究活動についての講演を聞きました

鳳凰学で用いているテキストの著者である岡本尚也先生を招いて、探究活動の大切さについて学びました。

本当に大切なのは、小テストや課題をやっているいい大学に入るのではなく、気になることを自分で見つけて調べて考えることなのかもしれないと思いました。気になったことを調べて自分で進んで楽しんで勉強する「探究」こそが大切なことで、自分を高めていくために必要なことだとわかりました。「なぜ先生はずっと物理を極めてきたのに、日本社会についての学問を始めたのか」それは、先生が本当に興味をもった分野を極め、知りたいことを知ろうとしているからだと思います。

1年 中村知歩(甲府北東中)



第42回山梨県高等学校芸術文化祭

毎年秋に開催される高校生のための文化の祭典。今年も多くの部門で西高生が活躍しました。

◆テーマ部門 最優秀賞◆

「止めるな芸術 止まるな私」(本年度山梨県高等学校芸術文化祭テーマ)

私自身、高校に入学してから日々の生活の変化に悩むことがありましたが、支えとなった要素のひとつに芸術がありました。思い描いていた高校生活とは違う日々にも何度も止まってしまうような気持ちになってしまった人も多いと思います。日々沢山のことを考え、悩むことが出来る私たちであるからこそ様々な芸術に乗せて今を生きている自分たちの思いを伝える事ができると思います。高校生として生きる私たちと共に進む芸術を思い描きこのテーマを考えました。

2年 中田京華(石和中)



◆美術・工芸部門 芸術文化祭賞◆

山梨県芸術文化祭で芸文祭賞をいただきました。限られた時間での制作でしたが、自分で納得のいくものに仕上げることができて良かったです。この絵は、効率が求められ機械化が進む中でも大切な物を見失いたくない、という思いを表現しています。明暗を強くし中央を明るくすることで、標本の蝶と人物の存在を強調しました。私は来年度、全国総合文化祭に参加します。全国の高校生の作品に触れて、多くのことを学んできたいと思います。

2年 古屋すずの(梨大附属中)



◆将棋部門 男子の部 芸術文化祭賞◆

私は10月16日芸文祭将棋部門で優勝し、関東大会と全国大会への出場権を得ることができました。コロナ禍の影響で大会中止等があった中、無事に大会が行われてホッとしました。関東大会では1回戦敗退と良い結果を出すことが出来ずにとっても悔しい思いをしました。しかしその中で、自分が序盤戦に弱いことが分かったので、全国大会までには苦手な序盤戦を研究し、自分の得意な終盤戦に勝負を持ち込めるように頑張りたいと思います。

2年 西川シュリ(双葉中)



<その他の成績一覧>

演劇部門	優秀賞	美術・工芸部門	奨励賞	雨宮想明(甲府北西中)	饗場由梨(甲府北中)
	創作脚本奨励賞	放送部門	アナウンス部門	奥山萌(梨大附属中)	
合唱部門	優秀賞	将棋部門	男子の部	第3位	狩野竜馬(梨大附属中)
吹奏楽部門	優秀賞	文学部門	詩部門	奨励賞	中本真央(玉穂中)
日本音楽部門	優秀賞		短歌部門	奨励賞	小林一慶(玉幡中) 久保田弥生(田富中)
新聞部門	優秀賞		俳句部門	優秀賞	上田晃太郎(甲府北東中) 大森拓也(玉幡中) 常盤真央(櫛形中)
書道部門	優秀賞			奨励賞	秋山遥香(白根御勅使中) 車谷心彩音(梨大附属中)
茶道部門	優秀賞				関口結梨(若草中) 土橋沙和(櫛形中) 中村知歩(甲府北東中)
ユネスコ部門	奨励賞				保坂優奈(櫛形中) 松田侑大(甲府南中) 湯川大晋(甲府南中)

第30回小論文・読書感想文コンテスト感想文部門 最優秀賞

山梨県高等学校地歴科・公民科主催のコンテストで最高賞を受賞しました。

『池上彰の講義の時間 高校生からわかるイスラム世界』という本を読み、書いた感想文が最優秀賞をいただいたこと、私の作文を読んで何か感じとってくださったことに感謝の気持ちでいっぱいです。この本から、人の数だけ考えがあり、それらは尊重すべきであることを私は学びました。また平和の鍵は寛容な姿勢にこそあると感じました。私は、私達の手は傷つけるためではなく、繋ぐためにあるのだと思っています。人々の命が理不尽に脅かされることなく生きることができるように願い、寛容な姿勢を心がけていきたいです。 1年 山本桜菜(塩山中)



山梨日日新聞 高校生俳句・短歌大会 大賞

山梨日日新聞社主催山日高校生俳句・短歌大会の短歌の部において、最高賞を受賞しました。

ダヴィンチの 遠近法は 青を足す 僕らの春が 青い理由か

「今の自分にしか作れない短歌を」という国語の先生の言葉を聞いて、苦しかった自粛期間をテーマにしようと決めました。友人と会うこともできなかったあの日々をもとに短歌を作るのは、まさに今の自分にしかできないことだと思ったからです。それでもやはり、この短歌を作ることができたのは、自粛期間後の楽しい学校生活を共にしてくれる友人がいたからこそだと思います。この歌のインスピレーションを与えてくれた友人とともに、残り半分を切った高校生活も駆け抜けていきたいです。 2年 深沢龍之介(若草中)



第15回全日本高校模擬国連大会出場(兵庫県淡路夢舞台国際会議場)



「全日本高校模擬国連大会(通称:模擬国連)」とは、学生が各国の大使になりきり、実際の国連の会議を模擬する活動です。各大使は、会議準備として担当国や議題についてリサーチを行い政策を立案します。会議では自国の政策をもとにそれぞれの国益を考慮しながらも、国際社会としての問題解決に貢献するために、演説や交渉を行います。この模擬国連に、本校からESS部に所属する2名の生徒が選ばれ、日本大使として参加しました。

私達は、去年の11月に行われた第15回全日本高校模擬国連大会に出場しました。議題は核軍縮・核不拡散で、担当国は日本でした。周りに模擬国連の経験者がいなかったため、私たちペアはパイオニアのような状態でしたが、二人で初心者なりに練習し、政策や条約を考えました。今大会では、グローバルな視点を持つことや国際情勢の複雑さだけでなく、他人の意見を聞き入れる寛容さ、人を引き込む弁論力を高めることができたと思います。 1年 武田輝幸(双葉中)



大会への参加自体は選考制で、参加条件に多大な量の文書の提出が課題として出されました。二人で助け合いながら課題に取り組み、幸いにも大会への参加が決定しました。その後もペアと初心者なりに練習しながら迎えた当日、私達は何度も他の参加者のレベルの高さに驚かされましたが、二日間、たっぷりと国際問題に対する新たな視点に触れることができました。私達自身、普段触れることのない国際問題について真剣に考えたことにより、ミクロからマクロまでの幅広い視点で物事を考えられるようになったと思います。貴重な体験をさせていただいた大会関係者の方々や先生方に感謝申し上げます。 1年 辻寛菜(甲府西中)



留学生からのメッセージ

昨年6月から2ヶ月間、ドイツから西高に留学していた宮川さんから西高生へメッセージが届きました。



明けましておめでとうございます。甲府西高校での生活は、今までの人生の中で一番楽しく心に残る思い出です。先生の皆さん、クラスのみんな、廊下で会う先輩や同じ学年のみんな、初めて「センパイ」って呼んでくれた後輩のみんな、すごすごく優しく幸せでした。また、憧れていた「部活」に参加できて毎日が楽しかったです。文化祭もみんなでダンスをして、ワクワクしすぎて笑顔が止まらなかったです。ただ、甲府の暑さはきつかったです。ドイツとは違う素敵な、そして純粋な青春が味わえました。今はテスト期間なので毎日大変です。特にフランス語と生物が難しいです(助けてください)。ドイツに遊びに来てね。大好きです。 宮川 希(最前列左)



校長 初鹿野 仁

大志を抱くグローバルな人材

2年前の冬、ちょうど新型コロナウイルス感染の拡大が世界的に始まる直前の12月、出張で北京に行きました。ICT教育の充実が叫ばれるなか、英語教育のソフトを開発し、世界的に展開しているある企業とそのソフトを実際に使用している教育現場の訪問により、中国におけるICT教育の現状を視察するというものでした。

この視察でまず驚いたことは、その会社のCEOやCOOはまだ30代で、友人数名と起業して今の会社を築いたことでした。COOの女性は北京大学卒業後、ハーバード大学に留学した経歴を持ち、英語はもちろん日本語も堪能で、細やかな気配りができる人物でした。こういった若い世代の起業家が、自分の才能と可能性を追求し、世界的視野に立ってビジネスを行っている姿は、今の中国の勢いを説明するには十分な光景であり、このままでは、日本は世界の競争から取り残されてしまうのではないかとさえ思われました。

一方、教育現場の視察では、北京大学と精華大学の附属中学校を訪問

しました。北京大学は文系大学のトップ、精華大学は理系大学のトップとのことでしたが、どちらの中学校でも、生徒はipadを当たり前のように使いこなし、AIを組み込んだプログラムに各自が即座に反応し、ツールとしての英語のブラッシュアップに没頭していました。教師、生徒の真剣なまなざしや熱意から、前述した企業の経営者のような人材が着実に育成されていることを実感しました。

本校は、日本マイクロソフト(株)のモデル校をきっかけに、数年前から全校体制でICT教育を推進してきました。これにより、生徒の皆さんのコンピュータ・リテラシーは飛躍的に向上したと考えています。同時に、総合的な探究の時間では、国際バカロレア (IB) 教育の要素を取り入れた課題研究論文に取り組み、グローバル人材として世界で活躍するためには必要不可欠な思考法とされ、大学進学以降、更には生涯にわたって大きな武器となる「クリティカル・シンキング (批判的思考)」の基礎を育成してきました。このような背景をもち、多彩な人材による化学反応が期待できる本校からは、中国の若者に負けない熱い思いと大志を抱くグローバルな人材が育っていくものと大いに期待しているところです。



IBの使命 IB mission statement

国際バカロレア (IB) は、多様な文化の理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する、探求心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています。

この目的のため、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいます。

IBのプログラムは、世界各地で学ぶ児童生徒に、人がもつ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあがり得ると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています。

IB国語HL~ Japanese A; Language and literatureについて

授業紹介壁新聞記事より

IB国語の大きな特徴は、教科書がないということです。その代わり、授業では、市販の書籍を使います。主に小説ですが、評論も読みました。

小説を使った授業では、まず、各自が家で本を読めます。授業中には、先生が内容や人物像を問う質問をするので、ホワイトボードや模造紙に自分の答を書きます。その後それを全員に向けて発表し、質疑応答をします。他の人の意見を聞くと、「なるほど・・・!」と思うことが多く、自分の意見の考え方についての課題を見つけることもよくあります。

評論を読んだときには、スライドを作って10分間のプレゼンをしました。一人一冊、別々の書籍を担当していたので、自分が特に何を伝えたいかを考える良い機会となりました。

授業に必須なのは、予習です。具体的には本をよく読み、内容をつかむといったことが必要になります。また、IB国語の授業では、毎時間「振り返り」をしています。その日にどんなことを学んだのか、何を思ったのかをまとめます。ちなみに授業は**日本語**で行います。



受講生が作成したIBの授業紹介壁新聞



IB国語HLの授業風景



ホワイトボードを使った意見交換の様子



Kofu Nishi High School

山梨県立甲府西高等学校

〒400-0064 山梨県甲府市下飯田4丁目1-1
TEL:055-228-5161 FAX:055-228-5164
URL <http://www.nishi.kai.ed.jp/>

発行日/2022.2 編集/広報委員会



*stage /steɪdʒ/

[[立っている場所]が原義] — ㊦ (㊧) ~s/-ɪz / ㊨

1 [舞台、ステージ] ◆世界の象徴

2 [活動の]舞台、場所 [for, of]

3 (発達・発展などの)段階、時期

用例) 1 N-stage 西高生の時代(時期)

2 N-stage 西高生の活動舞台